

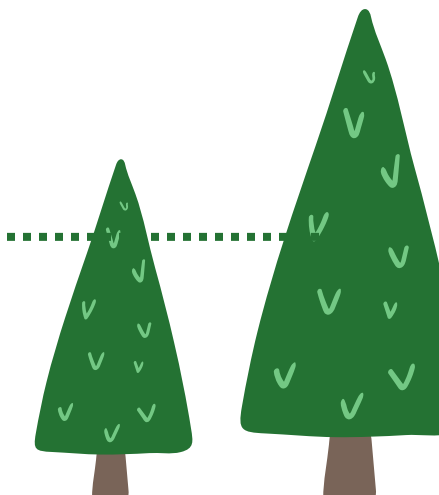
その先が見えてくる



「バルセロナ日本人学校」 だから、できること



バルセロナ日本人学校で得られるもの



01

子どもたちが安心して学べる環境



スペインでの教育について

02

日本語力のブラッシュアップ

03

生きた外国語教育

04

子どもたちの将来を見据えて

05

将来の選択肢を与える

06

幼稚部からの滑らかな接続

もくじ

新天地での不安を減らす

だれでも、新しい地での生活、しかも異なる言語文化のある土地での生活には、期待もありますが、不安も感じるものです。そんな中、異なる言語文化環境への「転校」は子どもたちにとって、大きなストレス、負担になることも多いです。

ご家族の新しい生活のスタートに言語環境、文化環境の変化による負担が少ない環境を与えられる場所がバルセロナ日本人学校にはあります。



01

子どもたちが安心して学べる環境

日本国内と同水準の教育

日本から派遣された教職員が、専門性を生かし、各教科において日本国内と同水準の質の高い教育を提供しています。

少人数のよさを生かし、各学年主要教科は学年ごとに、それぞれの子どもたちの長所短所を細やかにフォローしながら授業を展開しています。





スペインの教育について

現地校公立校・半公立校①

スペイン現地校では、三歳児からプレスクールとしてアルファベットや数字を習得する教育が開始します。小学校入学時には自分の名前や簡単な言葉をアルファベットで読み書きできるようにしています。

このため、小学校1年生からすぐに基本の読み書きができることが前提とされる勉強に進みます。

小学校は6年制、中学校は4年制です。昨今は少なくなったとされますが、各学年の学習内容が理解できていないと判断されると、小学生でも「留年」があります。経済協力開発機構OECDによると、2022年にスペインの中学生の7%*は留年を経験するとのことでした。





スペインの教育について

現地校公立校・半公立校②

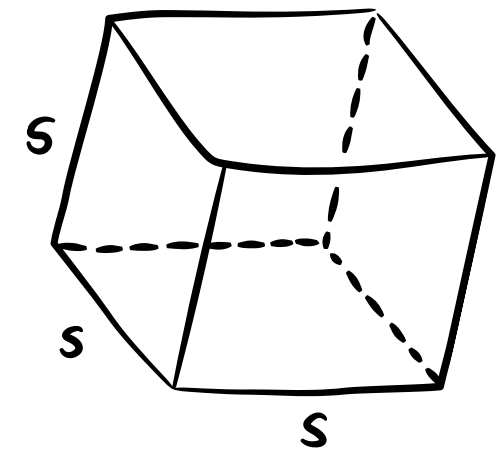
スペインでは、義務教育を終えることができない子供が増えていることが大きな問題となっています。

このため、この国では、近年、義務教育での指導内容を変更させ、できるだけ多くの子どもが義務教育課程を終えることができるような指導内容、指導方法を導入しています。

例えば、算数では、掛け算は小3（日本は小2）から、割り算は小4（日本は小3）から行われます。

二年間だけスペインの学校に行って、後は日本に帰国して、と計画される場合、気をつけないと、小学校で掛け算、割り算を教えてもらえなくて、算数が大変なことに…ということもあり得ます。

$$\frac{x}{a} + \frac{y}{b} = 1$$



$$V = s^3$$



スペインの教育について

現地校の時間割

「シエスタ」で有名なスペイン。そんなスペインの学校は、9時から始まりますが、お昼休みが13時から15時まで2時間あります。この間、授業は行われず、ランチルームで「保育」が行われます。家庭によっては子どもを一度家に帰宅させて家で昼食をとって、また登校する場合があります。

午後の授業は15時から16時半ごろまであります。放課後は17時ごろからは習い事の時間となり、夜19時過ぎまで習い事で家に帰らないという子も多いようです。

この子どもの生活時間については、昨今、成長過程にある子供にふさわしくないと、問題視される意見も上がっていますが、共働きの多いスペインでは、この学校の時間割から脱却するのは難しいようです。





カタルーニャでの教育について

カタルーニャ語での指導

スペインには、居住地域によれば、バスク語、カタルーニャ語、ガリシア語が、日本人がよく知る「スペイン語（カスティーリャ語）」以外にも公用語として用いられています。バルセロナ市やサンクガット市があるカタルーニャ州では、カタルーニャ語が公用語とされており、公立校、半公立校での教育言語は、カタルーニャ語で行うとしています。

このため、「La Lengua Castellana」と呼ばれる、いわゆる「スペイン語国語科」の授業以外の授業は、原則カタルーニャ語で行われます。ただし、児童生徒の発言は、カタルーニャ語、スペイン語のどちらでもよいとされており、カタルーニャ語使用を強制はしない、としています。

また、公立学校の多くにはスペイン語、カタルーニャ語を知らない新入生たちには、言語教育として、カタルーニャ語導入クラスが準備されています。





インター校での教育について

スペイン国内の外国人子女を対象にした学校

スペインのインター校は通常英語での授業を展開しており、国際バカロレアのプログラムに即して授業展開していることが多いです。高校卒業資格相当のGCE Aという資格を得ることができれば、日本での高卒資格があると認められ、日本の大学に進学することもできます。

バルセロナで中学校卒業資格を得るには、バルセロナ日本人学校中学部を卒業するか、「(国外の)学校教育における9年の課程を修了した者」となるかになります。スペインのインター校から、日本の高校に進学することを考えている場合は、高校受験時に受験資格を得ることができるかを前もってよく確認してから学校を選ぶ必要が出てきます。





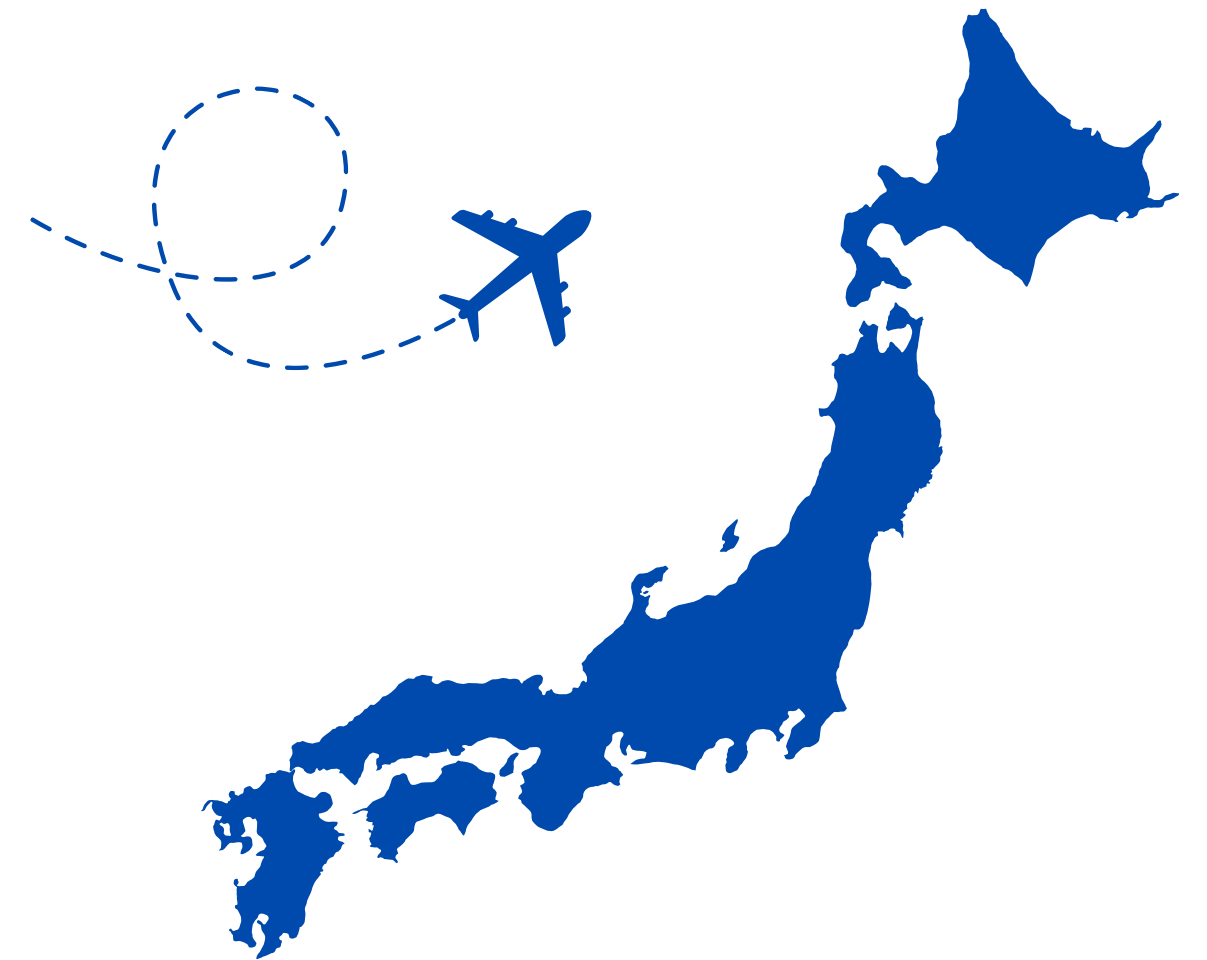
インター校での教育について

帰国後、日本のインター校を選ぶ場合

大前提として、日本人の子女が日本のインター校に編入する場合、保護者は就学義務違反となります。居住先の学校教育委員会に詳細等を問い合わせて確認する必要があります。

また、日本のインター校の小学部、もしくは、中学部を卒業しても、日本の学校の小学部、中学部のそれぞれの課程を修了したとはみなされません。インター校の小学校を卒業しても、日本の法律の定める中学校には入学できないこととなります。

将来、日本の中学校、高校への進学を考えておられる場合、バルセロナでは日本人学校への編入学が、お子さんへの負担が一番少ない選択肢となるかもしれません。

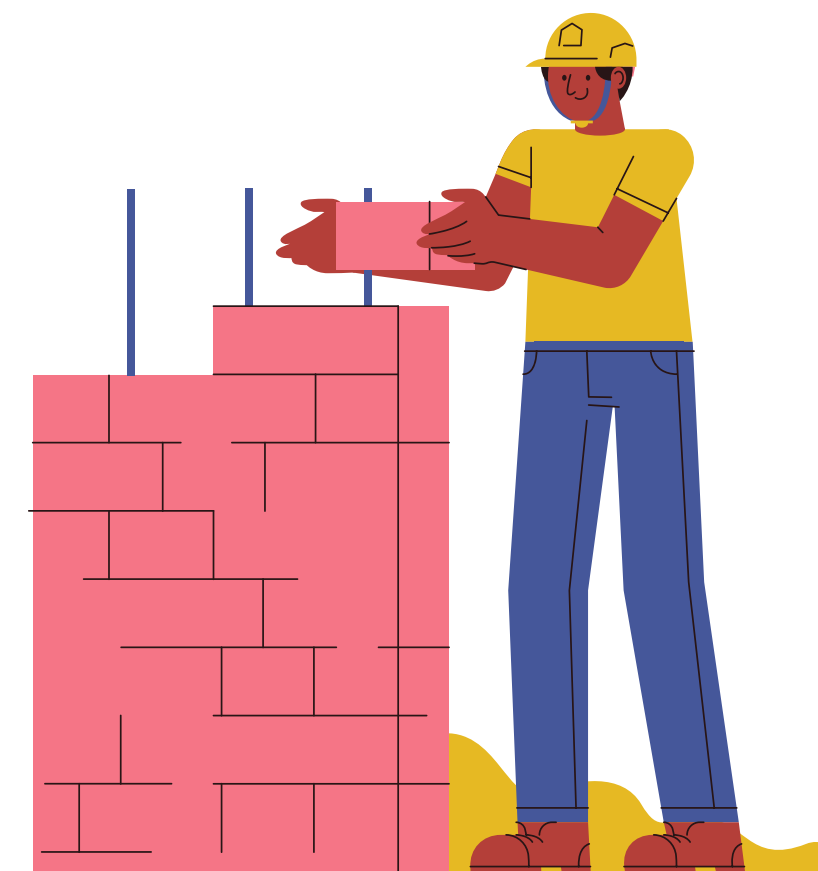


心の基礎となる言語を築き磨く

「母語」は、単に親からもらった言語だけではありません。子どもたちは、その言語を用い、心、知能、体を発達させ、社会の中でいろんな人と関わって大きくなっていくことができます。

母語が日本語である場合、日本語の基礎をしっかりと磨いてあげることで、学力を伸ばすことだけでなく、子ども自身の人間性を磨き上げることになります。

バルセロナ日本人学校では、学校行事、毎日の充実した教師や子ども同士のかかわりを通して、国語力を支え、磨きます。



英会話・スペイン語教育

バルセロナ日本人学校では、日本の教育課程における外国語教育に加えて、英会話・スペイン語の学習を小学一年生から行っています。

ネイティブの教員を中心に、そして、言葉を使う機会として、現地校との交流や校外学習、そして、毎日の生活で学んだ内容を利用する形で、スペインでの生活に自信や関心を持たせるとともに、日本語・スペイン語・英語の三つの言語教育の相乗効果で言語に関する学習意欲と感性を向上させます。

母語で年齢相応の認知能力を習得した上で、他言語を学べるのが日本人学校の魅力です。



キャリアアップ教育

バルセロナ日本人学校では、当地の商店、官公庁、大学、日本企業等の協力により、質の高い社会科見学、体験学習や講演会を行っています。

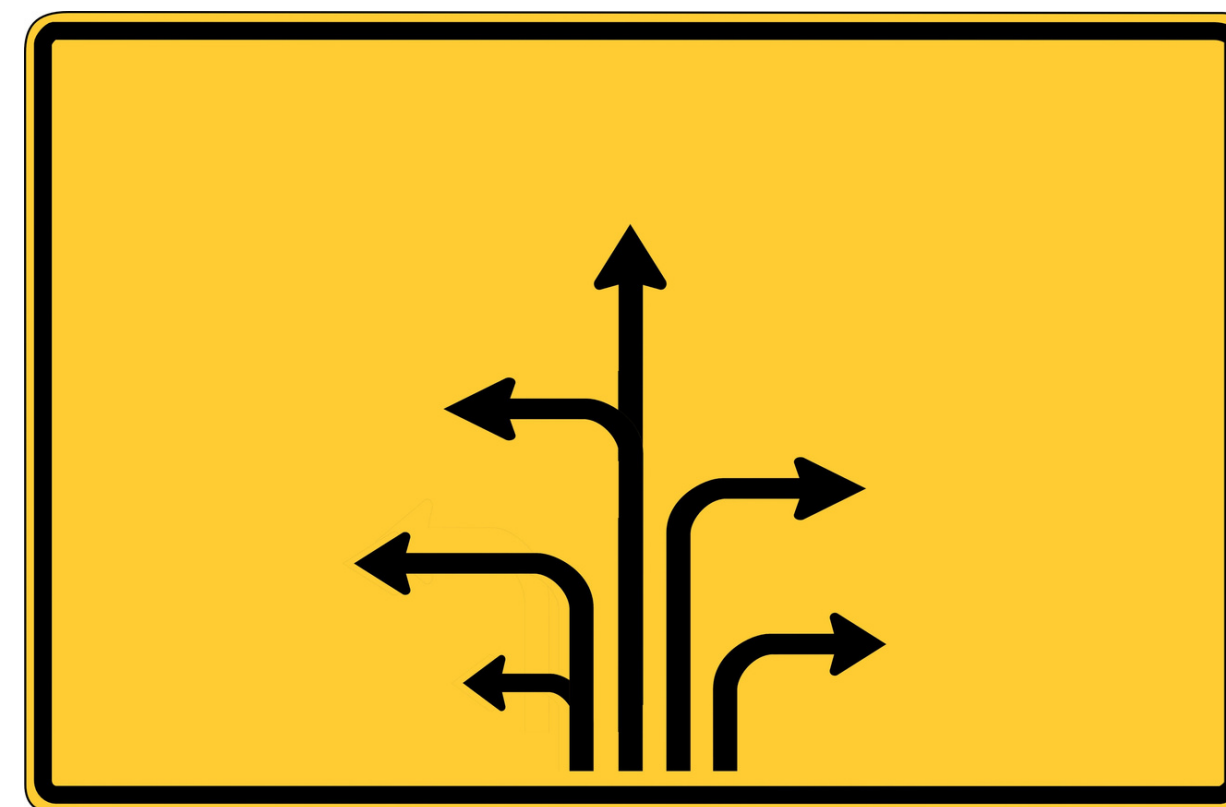
子どもたちが自分の未来に夢や目標を描くための豊かなキャリア発達を刺激、促進します。



スペイン、日本国内外への進学

国際化、多様化する現在、それぞれの子どもにそれぞれの未来があります。

これまでの卒業生、在校生とともに本校が培った経験と日本国内外の学校との連携により、日本国内の公立校、私学校はもとより、スペイン国内の現地校、インターナショナルスクール、スポーツ留学など、たくさんの選択肢から、児童生徒と向かい合い、それぞれに一番良い進学先を選びだしてまいります。



幼稚部が併設されています。

バルセロナ日本人学校は、世界中の日本人学校でも珍しく、幼稚部が併設されています。

幼稚部の年長児には、小学校の就学準備の時間も設けられています。体験入学という日も設けられ、幼稚部から小学校での勉強がどんなものかを知る機械もあります。

幼稚部から小学部への進学の際には、幼小担当教員同士が引継ぎをしっかりと行い、小学部受け入れ態勢を万全にしています。また、幼稚部を担当している教員が小学部低学年の一部の教科を担当しています。





バルセロナ日本人学校で
お待ちしております！